

国連大学グローバルセミナー第7回東北セッションを開催しました

「国連大学グローバルセミナー」は、国連大学が「現代社会が直面している地球規模の問題と国際連合の取り組みについての意識を高めることを目的」として、全国7つの地域で展開しているセミナーです。今回の第7回東北セッションは、宮城教育大学が中心になって企画し、「地球をささえるヒューマンリソース - いま教育にできること」というテーマで9月20日(土)から23日(火)の4日間にわたって開催されました。

9月20日(土)は、公開セミナーとして、仙台国際センターを会場とし、独立行政法人産業技術総合研究所理事長の吉川弘之氏、国連大学副学長の武内和彦氏、そしてカナダ・ヨーク大学のチャールズ・ホプキンス氏という「持続可能な社会づくり」の分野の第一線で活躍されている著名な方々をお招きし、環境や人口、教育の問題など、地球規模でわたしたちが直面している課題について学びました。21日(日)~23日(火)は岩沼市のモンタナリゾートで、引き続きグローバルな課題についてお話をうかがうとともに、地域で農業や福祉を实践されている方のお話を学び、フィールドワークを行いました。最後にどうやって自分たち自身が行動すればよいのかについて、実践を行動に移すためのコミュニケーション力について学んでから、参加者による発表会で締めくくりとしました。

セミナーの参加者は、北海道から京都にまたがる大学生、大学院生、社会人全66名で、それらの参加者は、東北各大学のプログラム委員の先生のアドバイスを受けながら、四日間寝食を共にし、英語でそして日本語で討論を行います。驚かされたのはセミナーに参加した方々の学習意識の高さです。ハードな日程にもかかわらず最後まで一人の脱落者もなく、また、講義が終わるとすぐに質問が出て、退出される講師の先生を取り囲んでまた質問する熱心さでした。

このたびのセミナーが大変充実したものとなったその陰には、ご協力いただいた東北地方の10の大学、企業、財団、協会、そして岩沼市をはじめとした関係市町村の方々のご支援があります。国連大学グローバルセミナーにご協力いただいたすべての皆さまに、心から御礼もうしあげます。

(国際理解教育研究センター 准教授 市瀬智紀)